

方針と 重点	市の 基本 施策	学校の 教育 目標	学校 目指す 像	資 育 て たい 質 ・ 能 力	基本 施策 との 関 わり	本年度新たな 学校の重点	具体的な実践内容または観点 (手立てとしてどうか、または達成度かどうか)	評価 A S D	分析と改善点
重点・挑戦し続けるたくましさの育成 方針・郷土高山に根ざし、未来を切り拓くための資質・能力を育む	①②③④ 「なりたい自分」へ向かう個の発信 深い学びを実感できる授業への挑戦	自分でできる子・協力ができる子・思いやりのある子	① 通いたい学校 ② 通わせたい学校 ③ 集いたい学校 ④ 勤めたい学校	(1)(2)(3) 自分や他人を思いやり、価値あるものや自己調整しながら生み出す力 目標に向けて取り組む力	(1)	① 確かな学力の育成	学び方の指導(個人、集団)	B	・義務教育学校となり、全校体制での研究を推進することで、9年間の継続的な指導の充実を図る。 ・学習のマイサポーター制を前期課程の高学年でも導入し、個に合った学習のアドバイスができるようにする。 ・ふるさとドリーマーの活用と共に、地域の人と共有したり地域に貢献したりする場を増やす。 ・「なりたい自分」の設定を短期から9年間、さらには将来の自分へとつながるようにし、評価や振り返りの期間や方法について改善する。
						① 確かな学力の育成	教師が評価基準を確認し、子どもが理解して追究する授業の確立	B	
						① 確かな学力の育成	学習のマイサポーター制の実施	A	
						③ 郷土教育の推進	探究のカリキュラムの確立	A	
						② 適応力の向上	なりたい自分と手段を明確するための懇談・価値づけ	B	
						② 適応力の向上	社会情動的スキルの育成に向けた実践	B	
					(2)	① 確かな学力の育成	PDCAによる授業改善	B	・PDCAサイクルで学びの意識を高める。特に個々が自らの学びを修正・調整していく力をつけるための指導をする。 ・ICTを学校生活のあらゆる場面で活用できるようにしていく。
						③ 郷土教育の推進	ふるさとドリーマーとして地域の方を講師に招聘 総合的な学習での協働的な学び・活動、発信の機会の充実	A	
						② 適応力の向上	校外の人との関わる機会の位置づけ	B	
					(3)	① 確かな学力の育成	考えの根拠や判断理由の言語化、表現の機会の充実	B	・学んだことを表現したり発信したりする機会を増やす。さらに、郷土学習で学んだことも外国語で内外に発信できるようにする。 ・全校あるいは前期課程内での縦割りの活動を増やし、異年齢での学びを継続していく。
						③ 郷土教育の推進	地域に貢献する活動の位置づけ	B	
						② 適応力の向上	社会情動的スキルの育成に向けた実践、異年齢学習の充実	B	
					教育環境の充実	④ 働き方改革の推進	小中連携による業務負担解消 日課・行事の見直しによる業務のスリム化	B	・育Me科や外国語学習において、大学や専門家からの指導・研修を継続し、教員の指導力を高める。また、その成果を外部へ発信していく。
						④ 先進的教育の研修機会の充実	大学や専門家による先進的教育の指導・研修の機会の充実	A	
						④ 働きやすい環境づくりの推進	定期的面談や疲労蓄積度調査などの実施	A	

学校運営協議会における主な評価内容

- ・英語の授業での生徒の発音がすばらしい。授業の雰囲気もよい。
- ・授業の中でタブレット端末を他の教材と同じように自然に活用し、使いこなしているのがすばらしい。
- ・自分自身が授業に入って一緒に学びたいと感じた。
- ・児童生徒が学習したことを地域の方に教える機会があってもよいのではないかな。